

日時: 2015年1月
21日(水)・22日(木)

会場: 立命館大学 衣笠キャンパス
創思館 カンファレンスルーム

言語: 日本語・英語(両言語対応同時通訳有り)

[問い合わせ先]
towards-new-peace-studies@hotmail.co.jp

主催: 立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構
「オール立命館による学際統合型平和研究拠点」

共催: 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「国際社会における紛争解決と葛藤解消に向けた学際統合型平和研究」
立命館大学大学院国際関係研究科 / 人間の安全保障学会

後援: 立命館大学国際平和ミュージアム / JICA



© UN Photo A. Burridge

「人間の安全保障」の行方

—20年の経験と課題から

国家のみでは対応できない、国境を越える脅威から、一人一人の命と尊厳を守る「人間の安全保障」概念が誕生して20年になります。この間、日本やカナダが先頭に立ち、概念の浸透を目指す活動がすすめられ、2012年には国連総会において共通認識が得られました。また政策概念としても、国連やNGOの活動によって実践が積み重ねられています。しかし、同概念の導入によって何が変わり、何が達成されたのかは明らかではありません。人間の安全はどのように捉えられ、その対応はいかになされるべきなのでしょう。本シンポジウムでは、人間の安全保障概念誕生から20年を振り返り、20年の経験と課題を明らかにし、今後の展望を議論します。

<プログラム>

21日

10時～12時

基調講演① 高須 幸雄

(国連事務次長、人間の安全保障に関する国連事務総長特別顧問)

基調講演② ロイド・アクスワージー

(元カナダ外相、前ウィニペグ大学学長)

12時～13時 休憩

13時～15時

セッション① 「人間の安全保障」概念再考

司会: 足立 研幾 (立命館大学)

<パネリスト> ブライアン・ジョブ (ブリティッシュ・コロンビア大学)

旭 英昭 (日本国際問題研究所客員研究員、元在東ティモール大使)

ジョルジオ・シャーニー (国際基督教大学)

22日

10時～12時

セッション② 地域からみた人間の安全保障

司会: 本名 純 (立命館大学)

<パネリスト> 武内 進一 (アジア経済研究所)

リザル・スクマ (インドネシア戦略国際問題研究所所長)

嶋田 晴行 (JICA)

12時～13時30分 休憩

13時30分～15時30分

セッション③ 持続可能な人間の安全保障にむけて

司会: 松田 正彦 (立命館大学)

<パネリスト> 峯 陽一 (同志社大学)

鹿田 光子 (SEEDs Asia)

クロス 京子 (立命館大学)

15時30分～16時 休憩

16時～18時

セッション④ 人間の安全保障 —日本の実践

司会: 石原 直紀 (立命館大学)

<パネリスト> カロリーナ・ヘルナンデス (フィリピン大学)

石川 幸子 (JICA)

長 有紀枝 (立教大学)



© UN Photo Saw Lwin



© UN Photo IAEA Greg Webb

© UNDP